

国体中止でも 誇り胸に

東北

6～8月に県内外の大会で優勝するなど活躍した東北町在住の野辺地



長久保町長(右端)に国体出場権獲得を報告した久保(左から3人目)、鈴木(同4人目)、鎌本(同5人目)の3選手

野辺西3選手 夢・目標へ決意

西高校3年生の3人が3日、同町役場を訪れ、三重国体の出場権獲得を長久保耕治町長に報告した。国体は新型コロナウイルスの感染拡大で中止となったが、3人は国体出場権獲得の誇りを胸に、それぞれの夢や目標の実現に向け、努力していく決意を語った。

町役場を訪れたのは、いずれも東北中学校出身で、レスリング部の鈴木愛彩選手、久保流綺選手、空手道部の鎌本圭史郎選手。

鈴木選手はレスリング女子57^キ級の東北高校選手権で優勝し、全国高校総体では5位となった。久保選手は国体県予選の少年男子フリースタイル55^キ級で優勝。空手道部の鎌本選手は国体の代表者選考会で全勝した。

鈴木選手は「高校最後の大舞台が中止となり悔しいが、県代表として選ばれた自信を糧にして、自衛隊に入ってから頑張る」、久保選手は「先輩や先生から技術を習得でき、国体出場権を得られた。悔いのない3年間だった」、鎌本選手は「中止は残念だが、国体選手の誇りを持って、学校の先生になる目標に向け、努力していく」と語った。

長久保町長は「皆さんの活躍が町民を勇気づけている。夢に向かい頑張る」と激励した。

(兼平昌寛)